

新しい文化財が仲間入り～令和4年度国指定等文化財～

文化財課

令和4年度国指定等文化財

令和4年度は、国指定等文化財として新たに3件が指定及び登録されましたので紹介します。

■ 記念物（史跡）

たちきりいせき よこみねいせき

立切遺跡・横峯遺跡（中種子町・南種子町）

（令和4年11月指定）

立切遺跡と横峯遺跡は、種子島中・南部に位置します。3万5千年前に堆積した種IV火山灰層の下位から、後期旧石器時代前半期に位置づけられる落とし穴遺構や礫群が検出されました。

日本列島の南部に位置し、照葉樹林環境に適応した居住や生業を具体的に示す遺跡として重要です。



立切遺跡の落とし穴

（提供：埋蔵文化財センター）



横峯遺跡の礫群（提供：南種子町教育委員会）

あまみおおしまようさいあと

奄美大島要塞跡（瀬戸内町）（令和5年●月指定）

奄美大島要塞跡は、大島海峡東西口を中心に、大正10（1921）年から建設が開始され、その後断続的に建設された陸軍の要塞跡です。

大島海峡付近に集中的に残存するため要塞全体の理解が可能であり、ワシントン海軍軍縮会議や太平洋戦争の開始など、近代日本の国防施策と密接に関連する遺跡群として重要です。



西古見砲台跡（提供：瀬戸内町教育委員会）

■ 登録有形文化財（建造物）

さんしやうがつかうこうしや

山小学校校舎（徳之島町）（令和4年10月登録）

鉄筋コンクリート造2階建てで、各階北側に教室を2室並べ、南側は開放廊下とし、西端に階段室を付しています。

琉球列島アメリカ民政府工務交通局の設計に共通する正面の開放廊下が印象的な校舎です。



山小学校校舎（提供：徳之島町教育委員会）